

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-1-7 災害に強い県土づくり

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 道路維持課長 山崎 泰助 電話番号 0852-22-5187

事務事業の名称	防災事業	
目的	(1) 対象	道路利用者
	(2) 意図	安全で安心な道路通行空間の確保
事業概要	災害発生時における救助、救急、消防活動及び救援物資の輸送が円滑に行えるよう、道路防災総点検に基づく危険箇所の道路防災対策を行う。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	道路防災危険箇所整備率（全体）	目標値	32.00	33.00	
式・定義	対策完了箇所数（累計）／要対策箇所総数（2136ヶ所）	実績値	31.00	32.00	34.00	35.00		%
		達成率		100.00	103.00	103.00		%
式・定義	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			道路防災危険箇所整備率（緊急輸送道路上）	目標値	41.00	44.00	48.00	
式・定義	対策完了箇所数（累計）／要対策箇所総数（635ヶ所）	実績値	37.00	41.00	44.00	48.00		%
		達成率		100.00	100.00	100.00		%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	2,337,759	2,848,469
うち一般財源(千円)	70,541	77,489

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成8、9年度の道路防災総点検に基づき、要対策箇所（2,136ヶ所）の防災工事は、緊急輸送道路上の箇所を重点的に進めている。平成26年度末で、全体要対策箇所2,136ヶ所のうち、753ヶ所（対前年+37ヶ所）の対策が完了した。（整備率 753/2,136ヶ所=35% 未整備箇所数1,383ヶ所）そのうち、緊急輸送道路上では要対策箇所635ヶ所のうち、307ヶ所（対前年+27ヶ所）の対策が完了した。（整備率 307/635ヶ所=48% 未整備箇所数 328ヶ所）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

緊急輸送道路上の危険箇所の整備が、概ね計画どおりに進めることができ、災害発生時における緊急輸送道路の信頼性が着実に向上している。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

限られた予算のなかで、概ね計画どおりに進めることができてきているものの、毎年、20ヶ所程度の進捗であり、緊急輸送道路の対策に集中したとしても、残り328ヶ所の整備に早くても約15年かかる。一方、危険箇所以外での落石や土砂崩れの実績が多く、目標達成への影響（鈍化）が課題。

②困っている状況が発生している「原因」

対策工事着手にあたり、現地詳細調査を行った際に、予防的観点から危険箇所の前後も含めて対策を計画しており、1ヶ所当たりの工事費が、当初予定額より増加する傾向がある。

③原因を解消するための「課題」

対策実施時に、要対策箇所の施工範囲の絞り込み・工法選定をさらに行う。また、緊急輸送道路上の対策を優先的に行っているが、さらなる絞り込みを考慮する。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

予防的観点から対策計画を立案するが、個々の対策箇所の緊急性、危険性をさらに分析する。そして、施工範囲の絞り込み・工法選定を行い、1ヶ所当たりの工事費の抑制し、対策の促進を図る。また、優先的に整備を行っている緊急輸送道路上の危険箇所の中でも、1次路線をさらに優先して整備を行い、整備効果をさらに高める。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）